



ちょっと素敵な話
No.15

周りの支えがあって
今がある

私が福成会への就職を希望した動機は様々ありますが、学生の時に福成会の事業所のボランティアを経験させていただき、利用者さんと触れ合い、働かれている職員の皆さんの様子を見たことで決めました。

その中でも当時ボランティアでお世話になっていた事業所の所長さん。その方の考え方や方針を学生時代に聞く機会があり、そこで共感し、ボランティアを希望したのが始まりでした。

採用試験に合格することは出来ましたが、配属先は私が影響を受けた所長さんがおられる事業所ではありませんでした。それを気にするよりも、初めて経験する就職のため、目の前の業務に毎日がドキドキしたり、吸収したりすることばかりで、あつという間に時間が過ぎていったというのが印象です。

担当の利用者さんが気になって仕方がなかった毎日でした。若かったですから仕事を仕事と思わず、“生活の一部！”と捉えていた記憶があります。

そんな日々を過ごしていく中、入職して一年が経とうとしていました。当時は囁

託採用で、正規職員になるためには、正規採用試験に合格しなければなりません。特に意識をしていないといえれば嘘になりますが、日々利用者さんを支援していくことに変わりはありません。“どんな雇用形態でも構わないが、試験があるから受験しよう。”“当然正規雇用の方が自分の親も喜ぶだろう”そんな感覚でした。色々な採用基準の項目がありました。クリアできているだろう。先輩や所属所長からも「同期を見ても、まず優先的に受かるやろう。」などと、様々力強い言葉もいただきました。

自信をつけて臨んだ面接試験、特に大きな失敗をすることもなく、同期の様子を見ても“自分は負けていない！”と。当然合否のある試験ですが、応援して下さい下さった方々に良い報告ができるだろうと待ち望んでいた後日、利用者さんが帰られた後に所長から呼ばれました。

周りの先輩方も結果の発表ということは分かっている雰囲気。平常を装い、所長の元へ向かいました。

「結果発表ですが：不合格です。」

一瞬だけ言葉が脳に伝わらない時間があり、“そうなんや…”と思った瞬間、目の前の所長が、「申し訳ありません、この結果は私のせいです！」と謝るのです。

「いやいや違います。自分のせいです！」と返しましたが、所長は真剣に自分のことと捉えて、一生懸命私に謝罪をしてくださいました。期待に応えられなかったことが申し訳なさ過ぎて、「正規雇用でなくても私が今までやってきたことは変わらないし、また初心に戻ってより一層頑張ります！」と返事するのがやっとでした。

所長との話が終わり、次は先輩の元へ。

「どうやった？」と先輩。

「落ちました」と私。

その時の先輩方から「えっ!?なんで？」の言葉を何回聞いたことか。私の中ではすでに気持ちを切り替えていましたが、先輩方も自分のことのように考えて下さったのです。

利用者さんのご家族もその話をどこからか聞かれたようで、「何でなん？抗議に行こうか？」など、恐縮するぐらい激励の言葉をいただきました。本当に良い人たちに護られているなと感じ、この事業所に配属でよかったなと心の底から思え、再スタートを切りました。

数日後のことでした。業務が終わり、帰ろうとしていると一本の電話が私の携帯電話にかかってきました。電話に出ると私が福成会を希望するきっかけとなった所長さんからの電話でした。

「今から武庫之荘駅近くの寿司屋に来れますか？」

とのことで、すぐさま向かうと高そうな回らない老舗の寿司屋。

会って間もなく

「絶対くじけたらあかんよ。間違っていないんだから、頑張って！」

と、店の雰囲気も気にすることなく、激励の言葉をくださいました。

別の事業所で働いている私に、業務外の時間帯でこんなにも激励して下さることにとても感動しました。

私は、配属された事業所で仕事が出来て良かった”という考えをすぐに改めました。私は“福成会という法人で仕事が出来て良かった！”

その頃は若かったですから、今思えば正規採用の合格にたくさん足りない所があったと思います。しかし、そんな私のことを励まし、勇気づけてくれ、自分のことのように考えて下さる方々がいました。

この時の経験は大きく、「不合格」の一年は私にとって大切に必要な一年間となりました。“この人たちのような職員になる”と決意し、次の年に正規雇用試験に合格することが出来ました。“自分は一人じゃない、周りの支えがあつてこそ！”と仕事が出来ています。

あれからもう何年も過ぎました。

次はもうそろそろ私の番です。

職員のことを自分のことのように考え、励ましていくのは。

そしてあの寿司屋に連れて行くのも…。

